

## 令和5年度西宮市協働事業提案審査会(2日目) 会議録(要約)

日時：令和5年5月15日(月)9時00分から11時45分

場所：西宮市役所第二庁舎4階 B405会議室

出席者：【委員】伊丹 康二(会長)、西明 直子(副会長)、森下 こずえ、猪坂 幸司、桃谷 修司  
【事務局】市民協働推進課 課長 中尾 篤也、係長 武光 真一、主査 黒木 千聖

### 〈第1部 プレゼンテーション〉公開

#### ○開会

市民協働推進課長より挨拶。

#### ◇事務局

1 提案につき13分を予定。提案団体のプレゼンテーションで約3分、委員からの質疑に約10分。関係課職員への質問も可能。会長進行で開始。

### 10番目の事業「ともに子育てを楽しむ西宮へ～子育てパパママ応援事業～」について

#### ○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体(働くママの朝活会 in 西宮)から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

#### ○委員

- ・パパ向けの講座にいかに呼び込むことができるかが重要になる。参加者集めが難しいと思うが、集客のためのアイデアはお持ちか。

#### ◇提案団体

- ・ママに比べてパパのほうが集まりにくいいため、NPO法人ファザーリングジャパンへの声かけを予定している。この団体は、パパたちが楽しく育児できるように活動されている団体だが、以前一緒に活動したことがあり、つながりがある。それに加え、すでに活動されているパパに案内をし、そこから広げていきたい。

#### ○委員

- ・現在、朝活に参加されているママたちの夫ということか。

#### ◇提案団体

- ・もちろん声はかけるが、それだけでは集客が薄いため、普段の活動にプラスして取り組んでいきたい。

#### ○委員

- ・10～20名が目安との記載があるが、せつかく市との協働事業として実施するのであれば、市職員にも声をかけ、市として参加してもらおう方法も考えられる。また、そのくらいしなければ人は集まらないのではないか。
- ・料理講座についてはオンラインで実施されるとのことなので、将来を見据えて、ネットを活用したパパのネットワーク作りを一つの目玉として進めていただきたいというのが希望。

◇提案団体

- ・今回は単なる料理講座ではなく、普段の朝活会でも実践しているように、自己紹介や普段の生活の話をしてもらって座談会もあわせて実施したいと考えている。

○委員

- ・今まで活動される中で、ママの参加は多かったと思われるが、パパはあまり入ってきていないのか。

◇提案団体

- ・2018年に未来づくりパートナー事業として「働くパパママ座談会」を各地で開催した。「パパと一緒に育児をする工夫」というテーマの回には、パパにも参加いただいた。

○委員

- ・パパをメインターゲットにするのは今回が初めてか。

◇提案団体

- ・メインターゲットとするのは今回が初めてとなる。

○委員

- ・個人的な一意見として聞いてほしいが、これまではどうしてもママの学びの場が多かったと思う。例えば「子どもが急な病気！パパはどうしてる？」というタイトルを見ると、ママたちの困った顔が目につく。そうすると、普段育児にあまり参加できていないと感じているパパは参加しづらい可能性があると感じた。

◇提案団体

- ・この講座のタイトルについては、講師が他市でも実施しているパッケージのような名称でそのまま記載していた。今回西宮で実施することになれば、ご意見を受けて、パパが参加しやすいようなタイトルに変更することも考えたい。
- ・石井市長もパパでもあるので、ぜひ市役所の育児中の方にも積極的に参加いただき、パパも来やすい雰囲気を作り出せればと考えている。

○会長

- ・市との協働事業として実施するにあたり、市に期待する役割として、事業へのアドバイス、広報サポート、場所の提供の3点を挙げられているが、さらに具体的に市に期待することはあるか。

◇提案団体

- ・昨年、育休復帰セミナーを実施したが、名義後援の申請をしなかったため、広報や集客の面で苦労した。市と一緒に実施することで、広く皆さんに知ってもらいたいということが一番大きい。
- ・今回、男女共同参画推進課が関係課となるが、普段から色々な取組をされているので、情報をいただくことで、民間と市が一緒になり、よりよい子育てのヒントが得られるのではないかと考え、期待する役割として挙げた。

○委員

- ・タイトルの「ともに子育てを楽しむ西宮」について、将来的に、どのような姿になっていることを目指しているか。

◇提案団体

- ・今は、個人個人がそれぞれ家庭の中で活動を頑張っている姿があると思うが、朝活会を通じて、みんなで思いを共有することで、少し心が軽くなったりすることを感じている。今回のような取組を通して、各家庭や子育て家庭を応援する団体がつながり、民間や任意団体、市などみんなと一緒に西宮の子育てがよりよくなるように考えていける機会が増え、実際にそれを市民の皆さんが体感で

きるような社会になればいいなという思いを込めて、タイトルを付けた。

○委員

- ・今回実施予定のほとんどのイベントにおいて、1回あたり10～20人程度の参加を想定されているが、この規模感で今おっしゃった目的やゴールに向かっていけると考えているか。

◇提案団体

- ・あまり多くなりすぎると、つながることが難しくなるため、10～20人規模のものを何回も繰り返し実施することで、徐々に絆が深まってくると考えている。

○委員

- ・ある程度同じ人に積み重ねていくのか、別々の10人を対象にし、50～60人にアプローチをしていくのか、どのようにお考えか。

◇提案団体

- ・今回は別々の方を対象に、様々な内容の事業を5つ企画している。今年1年だけではそこまでの広がりにはならないと思うが、これを繰り返し、長く続けていくことで、先ほどの「ともに子育てを楽しむ西宮」につなげていきたい。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

11番目の事業「『ままもぱぱも』地域とつながり、安心して子育てできるまちづくりを進める事業」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（特定非営利活動法人にしのみや次世代育成支援協会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・収支予算書からは、講師謝金や募集チラシの充実という部分が、これまでの活動から強化された部分という印象を受けた。今回、市と協働で事業を実施することによる新たな要素はあるか。

◇提案団体

- ・講師として新しい方を招くことができる。また、当団体は妊娠中からお母さん方とつながることが大事だと考えており、協働事業として実施することにより、保健センターの保健師を通じた広報が可能となり、必要な方に直接情報を届けることにつながると考えている。

○委員

- ・「ままもぱぱも」というタイトルだが、予定している活動全般の中で、お父さんが参加したくなる仕掛けはあるか。

◇提案団体

- ・「ぱぱのお悩みぶっちゃけトーク」の企画。現在行っている活動にも多くのお父さんに参加いただいている。まずはお母さんとお父さんに一緒に来てもらうというところが入り口となり、その後、拠点にお父さんもつながり続けてもらうことができると考えている。

○委員

- ・お父さんの参加が少ないため苦勞されている団体も多い中で、現状、多くのお父さんが参加されているとすれば、うまくいっている理由はどこにあるとお考えか。

◇提案団体

- ・現在実施している「だがしやさん」の事業では、おそらく初めはお母さんから一緒に行こうと声掛けしてくれていると思われる。来てくださった方とスタッフとで交流し、色々とお話をさせていただくが、そのコミュニケーションを大事にしており、その次からはお父さんが一人で来られるところにつながっている。

○副会長

- ・「宮っ子」に掲載されているか。

◇提案団体

- ・私自身、「宮っ子」の企画等に関わっており、これまで実施してきたお茶の間事業や子ども食堂の予定は掲載している。

○副会長

- ・地域とつながりたいというお話があったため、広報に「宮っ子」を活用してもらいたい。

○会長

- ・一か所に拠点を構えると、市と協働して市内全域の妊婦の方に広報しても、遠方の方もいるため、参加できる人のエリアがどうしても狭くなってしまう。現状、どのような範囲の人が参加しているか、また、少しでも範囲を広げるための工夫等があれば教えてほしい。

◇提案団体

- ・現時点では、チラシによる広報が限られていることもあり、瓦木・広田・平木・深津地域周辺の方が中心に参加されている。また、遠方からの参加につながるため、SNS等による発信も重要と考えている。
- ・西宮北口駅から徒歩5分という立地であることから、電車等でも気軽に来ていただけると思う。買い物ついでに立ち寄っていただくこともできる。

○副会長

- ・男女共同参画推進課として、今回のような団体がたくさん出てきて、団体同士がつながり、活動が広がっていくようにぜひ応援してもらいたい。

○委員

- ・様々な助成金を受けられているようだが、継続性があるものなのか。

◇提案団体

- ・助成金については、ほとんどが単年度のものになる。毎年申請し、採択されれば受けることができる。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

12番目の事業「森のネウボラの子そだて広場『森であそぼう！まなぼう！』について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（森のネウボラ）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・今回の応募により、どのようなことを期待されているか。

#### ◇提案団体

- ・大きく2点ある。1点目として、私たちは自分たちがあつたらいいなと思う子育て広場を始めたところがきっかけであり、地域とのつながりやネットワークを持っていない。この事業に応募することで、市政やそこに携わる色々な子育て支援の輪の中に、ネットワークとして入れていただけたありがたい。2点目として、これはどの子育て支援事業も抱えていると思うが、運営費の問題がある。昨年度は基本的にほとんど持ち出しで、ボランティアという形だった。専門知識を持った講師を招いても謝礼が払えない、謝礼の金額を上げると参加費も上がってしまうというジレンマでずっと悩んでいたところ、この助成金の存在を知り、応募に至った。
- ・私は助産師として産後ケアに関わっているが、公費が入ることで、利用者が負担する価格が下がり、小さな悩みでも利用しやすくなる。公費が子育てに入らなければ、裾野に広がらず、大きな悩みがなければ巻き込むことができないという状況を毎日実感している。

#### ○委員

- ・私も甲山森林公園に行くことがあるが、遠いことが最大のネックだと思う。先ほどのお金の問題も大事だと思うが、市と協働するにあたっては、多くの人に参加してもらうことをメインに考える必要がある。予算も遠慮して組まれているように見受けられるが、例えば、年に1回バスを貸し切って実施する方法も考えられる。せっかく環境面で他との違いがあっても、実際に来てもらう人を増やす手段を考えなければ広まらないのではないかと思うが、どのようにお考えか。

#### ◇提案団体

- ・広い地域で広報できるのはありがたい。また、子連れ・ベビーカー・市バスと三重苦のように感じるが、それ超えてでも参加される方もいる。貸し切りバスという発想は大きいですが、実現できれば素晴らしいと思う。

#### ○委員

- ・例えば、子供たちを遊びに連れてきている付近の幼稚園や保育所の方と協働し、団体が持つノウハウを生かしてコラボするような心がけをして広げていかなければ、あまり参加者は増えないのではないか。実施する方法はぜひ工夫していただきたい。

#### ◇提案団体

- ・今いただいたアイデアは、私たちの考えをすごく広げていただいた。森のよさというものが一つの軸になっており、公民館等での実施も考えたが、自分たち持ち味をどのようにすればより生かしていけるのかというところは、市や様々な方々とつながる中で、アイデアをいただきたいと思っている。

#### ○委員

- ・市の助成を受けるということは、市が応援しているということになるため、相談や働きかけもしやすくなると思う。

#### ○委員

- ・「感染や小さなケガなどを気にせず」という記載の捉え方について教えてほしい。提案団体が安心して遊べるようなリスクの低い環境を整えるという意味なのか、もしくは、子供だから多少ケガをしても大丈夫だという考え方なのかによって、関わり方が大きく違ってくると思う。

#### ◇提案団体

- ・すごく大事なポイントを指摘いただきありがとうございます。もちろん両方大事だと思うが、これまで座談会などを実施する中で、公園のような場所では、どうしても親同士の顔を気遣って止める

というようなことが多く発生するという話を聞いてきた。それを解消できるポイントとして、親同士が、我が子だけではなく、相手の子も自分の子のように一緒に見守るというスタンスを取り、一緒に子育てをしているという感覚になると、多少ケガやけんかをしたとしても、親同士で話し合える関係を作ることが一番大事ではないかと思っている。初めから私たちが全部見ているから気にしなくていいということでもなく、ケガしてもいいということでもなく、色々な考えの人たちが、お互いにつながりながら、お互いを知って、一緒に見守ることを目指している。

- ・けんかが起こったときにすぐに介入するのではなく、手を出した背景を見ることや、手を出した後にその子がどんな表情をしてどう考えているのかまで汲み取れる視点のようなものを、ネウボラの中で伝えていきたい。

○副会長

- ・講師への謝礼の話があったが、ボランティアで色々と活動している団体もある。そのような団体に声かけや連携はしているか。

◇提案団体

- ・SNS等を通じて様々な団体とつながることができた。そのようなつながりの中で、色々なノウハウを教えていただいたり、こちらが提供できることを提示してコラボしようという話はしている。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

### 13番目の事業「～どんな子も取り残さない～『インクルーシブなまち』西宮で安心して出産・育児を」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（どんな子も暮らしやすい西宮を考える会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・インクルーシブという言葉が使われているが、今回予定しているイベントには、障害のある子供を持つ家庭の方だけに参加してもらいたいのか、それとも、一般の方にも来てほしいと考えているか。

◇提案団体

- ・主に、ひろば、おしゃべり会・講座、情報誌発行の3つの施策を考えている。
- ・ひろばには障害の有無にかかわらず、また、子育て世代だけではなく幅広い世代の方に参加いただきたい。最近、多様な人が学ぶ場作りが難しくなっており、情報があふれている中、一人で子育てをして、自分の子供だけを見て悩む方が多いと感じていた。障害のある子の親に限らず色々な人が集まり、人はそもそも多様であることや、一人で悩まず、色々な人の力を借りて子育てをすればいいということを感じて安心してもらえればと考えている。
- ・発達特性のある子の性教育等の情報は、普段、一般的なには手に入りづらいため、相談できず悩んでいる方が多い。おしゃべり会・講座では、子供の発達で悩んでいる方や、障害のある子供を持つ親に限定し、普段の生活では手に入りにくい情報を手に入れたり、仲間をつくったりできる場にした。

○委員

- ・一般の方を交えた交流の機会を作ることは素晴らしいと思うが、一般の方に来てもらえるような仕

掛けについて、アイデア等はお持ちか。

◇提案団体

- ・ひろばについては、これまでも毎回想定以上に多くの方に参加いただいている。Instagram やチラシ、その他色々な集い場の公式 LINE 等で広報しているが、頑張って行く場所ではなく、頑張れないときに来てもらう場所だという理念やメッセージも一緒に伝えるようにしている。1 時間 30 分～2 時間の間に、20～30 組の参加があり、やはりこのような場が求められていることを実感している一方で、運営する中で、色々な方が参加しすぎていると、行きづらいと思う方もいるかもしれないとも感じている。そのような場に行くことをためらっている方とも何とかしてつながりたいと考えているため、行政と連携し、例えば健診会場や公共施設で情報を提供していただく必要がある。

○委員

- ・障害のある子供やその親の支援は、行政としてもそれなりの窓口を設けて行われていると思う。一方で、今までの活動内容から、かなり多くの方が必要に応じて参加されていると見受けられる。行政としても限界がある中で、提案団体は、子供本人だけでなく、その親に対するサポートの面で非常に役に立っておられるということか。

◇提案団体

- ・私たちの子供は小・中学生だが、実際に障害のある子供を育てる中で、色々な支援策はあるものの、それだけでは解決できない悩みも多かったという経験があり、活動を始めた。私たちの、気軽に相談できるところや、まずは分かち合い、そこから一緒に考えられるという身近さは大きな強みだと思っている。障害の分野には色々な支援事業があるが、なかなか必要な人に届かない、使いづらいということや、難しい分野なのでそもそも知らないという人も多い。私たちの団体が持つ、生の声や当事者のお隣さんのような力を活用していただき、必要とする人に届けていくことがとても重要であり、それにより、せつかく設けられている制度を活用していくことができるのではないかと思っている。

○委員

- ・今回の事業実施にあたり、行政に望むことや助けてほしいことは何か。

◇提案団体

- ・子育てに悩んでいる方は、SNS 等も遮断し、色々な人が集まる場にも行きづらいところがある。その人たちとのつながり方に課題を感じていたため、市政ニュースや市の公式 LINE 等を活用したい。また、ほとんどの方が訪れる場所である検診会場等に、安心できる情報があればつながりやすくなると思う。自分たちの経験談は話すことができるが、支援事業や学校園の現状等についての市の公式の情報を教えていただき、ひろばや講座の場で発信していきたい。

○委員

- ・「当事者はもちろん、将来世代などの幅広い市民に」とは、今の若者たちに情報発信をしていくということか。

◇提案団体

- ・その通り。今は「子育てが大変」という部分だけがクローズアップされ、学生と話す中でも、将来を思い描けなかったり、自分には子育てはできないと思ったり、漠然とした不安を抱いている若者が多いと実感している。これから結婚・出産・子育てを考えている人にも、様々な支援策があり、西宮には地域のつながりもあり、色々な市民団体も活発に活動しているため、安心して子育てができると実感してもらいたいと思っている。

○委員

- ・発達障害の診断を受けた人を対象とすると、福祉サービス等の話になると思うが、そこまでの年齢の子を対象にしているわけではないのか。

◇提案団体

- ・実際に子育て中の方と話していると、発達障害という診断がつくような特性が強くて一人で困っている人と、色々な情報が入りすぎていることで、子供の全ての行動が発達障害に見えてしまって過度に悩んでいる人がいる。本当に障害と診断され、サポートが必要な方に届けていくと同時に、多様な子がいて当たり前なので、一人で抱えず、みんなで支えていける地域づくりを進めたいと考えている。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

14 番目の事業「次世代のこども支援者育成事業」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（特定非営利活動法人こどもサポートステーション・たねとしずく）から事業の説明。では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・内容は簡潔でわかりやすい。対象者の人数や規模感についてどのようにお考えか。

◇提案団体

- ・当団体としても今年度から本格的に様々な活動をしていく。10名程度の学生に常に関わってもらえればと考えている。多くの大学と関わっているため、そこを基軸に学生を集めたい。それ以外にこれから新しく出会っていく学生ということで、最初は10人ぐらいのところから、2年目以降徐々に増やしていく形で考えている。
- ・活動内容として、月1回の食料提供や子供食堂、月1～2回の学習支援や遊びの支援などがあり、学生としては週1～2回関わられるような頻度で実施している。忙しい学生でも月1～2回は参加してもらおうことができると思う。

○委員

- ・10人というのはスタッフという意味か、それとも活動の対象者という意味か。

◇提案団体

- ・9～10月の基礎講座に参加していただくのが10人と考えている。それ以外に、ボランティアを経験していただく学生については、対象がもっと広くなると思っている。
- ・今回、基礎講座の動画を作成する予定。9～10月の参加者がたとえ10人であっても、その後に興味を持ってくれた学生には基礎講座の動画を見てもらい、途中からでも活動に不安なく参加できるような形にしたいと考えている。

○委員

- ・数字のデータを示していただき、状況はよくわかった。活動を通じて、数字のさらに奥にあるものを調べた上で、反映してもらえると、色々なモデルにとってもプラスになると思う。実際に学生と接する機会の中で、例えば、育てる自信がないなら、なぜ育てる自信がないのか、子供が好きではない理由があるのか等についてさらに深掘りしてもらえると、すべきことがよりシャープに見えて

くるのではないかと思う。他の活動への情報提供という意味でも、子供が欲しくないと思う理由のさらに深い部分を教えていただければと思う。

#### ◇提案団体

- ・今後、学生の声を取り入れていけるようなプログラムを作りたいと思っている。団体としては、外部の方と一緒にメンバーシップをとりながらの活動はまだ大きくできていないが、団体間やスタッフ間では対面を重要視して活動を行っている。この事業においても講座形式のものが多いが、実際のボランティア活動等を通じて、若者と対話の時間やリフレクションの時間、自己表現の時間を取り入れていきたい。その中で、若者が抱えている課題や不安感を聞き取ることができれば、大人としてどのように関わることができるかがわかってくるのではないかと、自分たちとしても期待をしているところ。

#### ○委員

- ・素人発想になるが、専門家を育てることが目的ではないため、「市民活動の意味を知る」「ひとり親困窮世帯の子供の背景を知る」という基礎講座の内容は堅いと感じた。学生は、気軽に参加できるという理由でボランティアに来ることが多い。しっかりとした人を育てることは応援するが、気楽に参加できるようなプログラムでなければ、人は集まらないのではないかと。簡単に参加できるボランティアから始め、活動する中で気づきを導き出せるようにしてほしい。
- ・講師料が比較的高額であり、費用対効果の面からも、もう少し内容に工夫が必要ではないか。協働事業として実施する以上、団体の支援者の育成だけでなく、さらに広げていただきたい。テーマが少し重いと感じるので、もっと広く遍く、友達を誘ったり、また行きたいと思ってもらえるような、気軽に参加できる内容となるよう工夫してもらいたい。

#### ◇提案団体

- ・非常に参考になるご意見ありがとうございます。どうしても真面目なフレーズが出てきてしまうが、実施時にはしっかりと考える必要があると感じており、見せ方については、今周りにいる学生にチラシ作成を手伝ってもらったり、言葉を作ってもらったりということを考えていきたい。
- ・このプログラムに至った背景として、この5～6年、様々な支援者支援の研修の実施や、地域連携で他団体と関わる中で、市民活動家の無知や技術不足により、困難にぶつかって失敗し、気持ちはあるのに支援の現場から離れていってしまうという場面を多く見てきたことがある。先日実施した子供支援者向けのコミュニケーション講座では、参加者30人のうちの2人以外は、支援者研修を受けたことがなく、不安だという声があがった。活動に参加する際、わからないので怖いというところがあるため、このプログラムが必要だと感じている。ただ、おっしゃるように、入り口の部分でハードルが上がってしまうことがないようにこれから考えていきたい。

#### ○委員

- ・当面は学生を対象とされると思うが、今後、20代だけではなく広げる予定はあるか。高齢で参加を希望する人もいると思う。

#### ◇提案団体

- ・もちろんそのようなことも考えているが、今回の目的は若者を取り込むことであり、気軽に、アクティビティを取り入れながら対話の機会を設け、同年代の若者同士が支え合う社会を醸成していくことを目指しているため、本事業に関しては3年間継続するとしても、あくまでも学生や20代の若者支援ということで考えている。

○会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

〈第2部 審査〉非公開

以 上